



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」

国立二小だより

令和2年(2020年)8月28日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

挑戦

6年生からの提案文

今月のゆるキャラ

ソーランにゃん



6年生児童の作品です

小林 理人

夏休みを目前に控えたある日の事です。6年生の代表児童が校長室にきました。

話を聞いてみると、総合的な学習の時間にまとめた「私への提案文」を読んでほしいということでした。コロナ禍でできなくなったことが多い中で卒業までにしたいことを話し合い、一人一人が自分の考えを提案文にまとめたとのことでした。

私は、提案書にある内容について尋ねてみました。すると、次の4つの答えが返ってきました。

「6年生としての責任を果たすために自分たちにできること」

「二小のリーダーとして、引き継いだ伝統を繋ぐためにできること」

「創立70周年、校舎の建替えという特別な1年に、6年生としてできること」

「6年間、共に過ごした仲間との絆を深め、思い出をつくるためにできること」

子供たちの強い思いがマスク越しの真剣な表情や目の輝きから伝わってきました。私は、コロナ禍を悲観的に捉えるだけではなく、前向きな気持ちを持とうとする子供たちに心を打たれ、夏休みに6年生全員の提案文に目を通し、6年生に私の考えを伝えることを約束しました。

私は、子供の顔を思い浮かべながら提案文を読みました。一人一人が現状と向き合い、一生懸命に仕上げた提案文でした。印象的な内容を紹介します。

「自分たちの年に伝統が途絶えないように、伝統を繋ぎたい。」

「色々な計画が中止となってしまったが、6年生の思い出、仲間との絆をつくりたい。」

「成長した姿を保護者の方やお世話になった方に感謝の気持ちが伝えたい。」

「在校生に6年生のすごさを伝えたい。」

「1年生に二小のことを伝えたい。そして、自分たちの6年生としての自覚を高めたい。」

「最後の年の思い出や70周年の記念に、団結や、やりがい、思い出を感じることがしたい。」

「みんなに役立つもの、卒業しても残るものをつくりたい。」 等

私は、6年生の使命感の強さに感心するとともに、6年間の成長の大きさを改めて感じました。そして、「6年生らしくありたい」「特別な1年間にしたい」という強い思いに心が震えました。

夏休みが終わり、提案文の内容とともにそこから感じた6年生の思いや、6年生と一緒に「今だからできること」を考え、6年生の思いを実現したいという考えを教職員に話しました。

そして、6年生の教室を訪問し、提案書を読んだ感想と、提案に対する私の考えを伝えました。また、先生方に6年生の思いを知ってもらい、2学期、3学期の様々な計画に活かしていくようお願いしたことも合わせて報告しました。

「授業日数46日」という短い学期となった1学期は、臨時休業、分散登校、新しい生活様式の定着などこれまで経験したことのない大きな試練がありました。また、これまでできたことや楽しみにしていたことができないなどのつらい経験もしました。しかし、その経験を通して、学校で友達と共に学ぶ楽しさや価値を改めて感じたり、コロナ禍でもできることを考え、工夫したりする経験もしました。このような中で6年生としてできることを考え、話し合い、それを行動に移そうとする6年生の姿はたのもしく、既に二小のリーダーであり、6年生としての責任を果たしていることを強く感じます。6年生の提案や行動を知った教職員や在校生も同じことを感じることでしょう。

2学期は96日間という長い学期となります。この頼もしいリーダーを中心に、心を一つにして「今しかできないこと」「今できること」に挑戦していきます。